

第 34 回 衛星小委員会
議事要旨

1. 日時

令和 8 年 1 月 27 日（火） 15 : 00 ～ 18 : 00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室 及び オンライン

3. 資料

資料 1-1: 宇宙開発利用加速化戦略プログラムに係る戦略プロジェクトの評価等について

資料 1-2: 宇宙開発利用加速化戦略プログラムに係る戦略プロジェクトの選定について

資料 2-1: 宇宙技術戦略(衛星、分野共通技術)令和 7 年度改訂に向けた検討資料

資料 2-2: 宇宙技術戦略(衛星、分野共通技術)令和 7 年度改訂のポイント(案)

資料 3: 「提言 我が国の将来 SAR 観測の在り方」について

参考資料: 宇宙産業規模について(宇宙経済)(たたき台)

4. 議事要旨

(1) 宇宙開発利用加速化戦略プログラム（スターダストプログラム）に係る戦略プロジェクトの評価・選定について

●戦略プロジェクト（継続）について、資料 1-1 に記載の前回の衛星小委員会における各委員からの意見等を踏まえた評価は妥当と判断され、令和 8 年度の実施事業及びその配分額を資料 1-2 の通り決定した。

●委員からの主な意見は以下の通り。

- ・実証の回数を重ねることが非常に重要である。
- ・個々のプロジェクト評価について異論は無いが、スターダストプログラムは利用実証も対象としている点は非常に画期的であった。今後、テーマ等は変わったとしても、こうした利活用を促進していくという「仕組み」については継続できるように検討していただきたい。
- ・小型 SAR 衛星コンステレーションの利用拡大に向けた実証については、これまでやってきたことが無駄にならないよう、R8 年度の進捗状況をしっかりと見極めながら R9 年度以降の予算措置についても検討が必要である。

(2) 宇宙技術戦略（衛星、分野共通技術）令和 7 年度改訂案について

●宇宙技術戦略（衛星、分野共通技術）の令和 7 年度改訂案について資料 2-1 及び 2-2 に基づき報告した。

●委員からの主な意見は以下の通り。

- ・改訂の方向性については異議なし。
- ・宇宙を利用する技術はどこに位置づけるのか。宇宙の技術を利用する側の明確なニーズに基づき定義されるべき。その上で必要となる技術の開発課題を提示してい

く方向性が望ましい。

- ・ ニーズとシーズの両方の視点で宇宙技術戦略に記載されていくことを期待する。
- ・ 民間活動には将来見通し（ロードマップ）と、官民の資金分担の明確化が必要と考える。今後も政府の技術開発・調達等の動向をフォローアップして発信してほしい。
- ・ 最近の諸外国の技術開発のスピードに対して危機感がある。世界は我々の想定をはるかに超えるスピードで進んでいる。この数年が勝負であり、技術開発から実装まで更なる加速化が必要である。

(3) 「提言 我が国の将来 SAR 観測の在り方」について
(衛星地球観測コンソーシアム (CONSEO) から報告)

● 将来 SAR 観測の在り方について、CONSEO 事務局より資料 3 に基づき報告した。

● 委員からの主な意見は以下の通り。

- ・ 日本の強みである大型の L バンド SAR 技術を JAXA が維持・発展させることが重要である。
- ・ 民間の小型 SAR 衛星が普及してきたことにより、JAXA の大型衛星による地球観測においては、民間との役割の差別化が必要である。
- ・ コストとリターンの観点が本検討ではやや不足している。仮に政府予算により公共インフラとして整備していく場合でも、コストを精査することは必要である。
- ・ この JAXA の SAR 衛星開発が、研究開発目的であるのか、国土強靱化や海洋状況把握といった国益に資する目的であるのかが不明瞭。後者であれば、文部科学省の研究開発予算ではなく、関係省庁が予算を組んでサービス調達を行う方が適切ではないか。
- ・ ALOS-4 の次の SAR 衛星について検討しているという構成だが、より先の将来的な方向性についても検討していくべき。また、開発期間や衛星の寿命等のタイムラインも考慮して検討すべきである。

以上